2011年11月9日 ご参考資料

楽読（ラクヨミ） Vol.451

Raku Yomi

楽読（ラクヨミ）

経験則から考える米国株式の買い場

nikko am fund academy

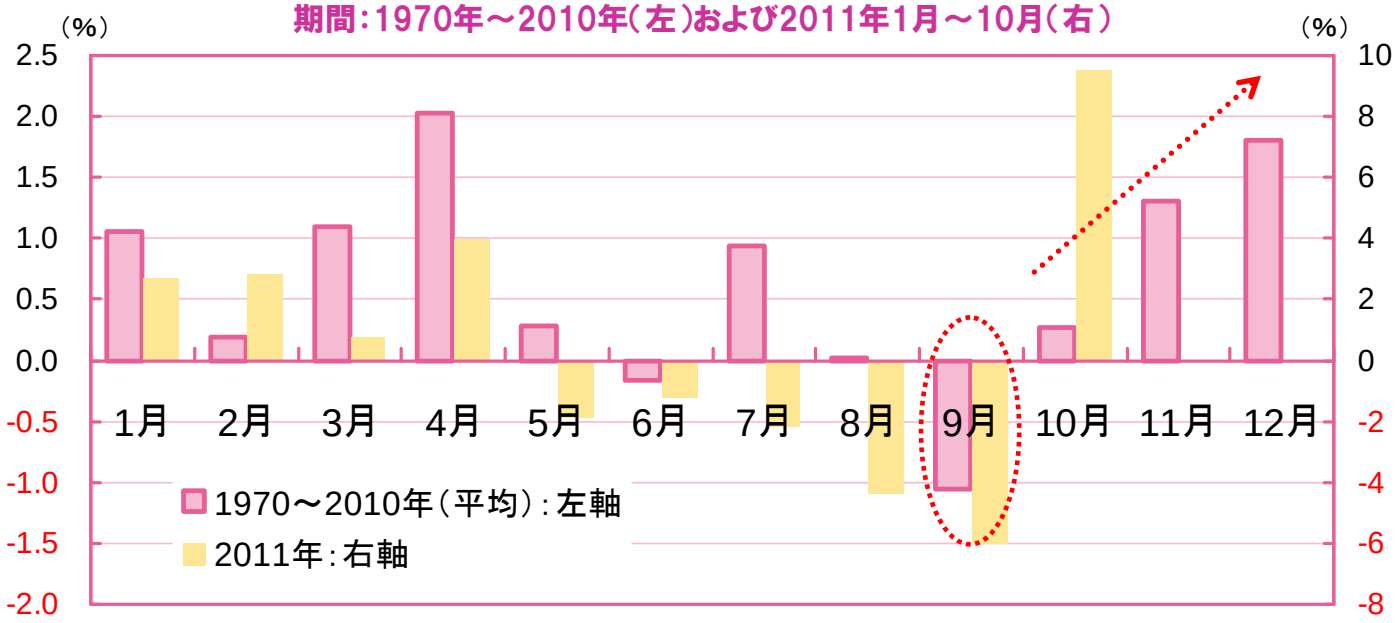
米国には、「5月に株を売れ（Sell in May and go away）」という相場格言があります。これは、株式市場において、6月から9月にかけては安値がつきやすいという季節性から導き出されたもので、その要因について明確な根拠はありませんが、夏季休暇に伴なう市場参加者の減少や、多くの投資信託が決算を迎える10月にかけて節税対策を目的とした損失確定の売りが増加することなどが背景にあると考えられています。

過去の株式市場の動きを、主要株価指数（NYダウ工業株30種平均）の月別騰落率でみると、株価は10月から4月にかけて上昇基調で推移した後、年央にかけて調整する傾向があることが確認できます（下図）。毎年このような動きになるとは限りませんが、こうした経験則は、投資のタイミングを考える上で、ひとつの参考指標としてとらえることができると考えられます。

2011年を振り返ると、5月以降、下落基調を強めてきた米国株式市場は、10月に大幅な反発をみせ、11月に入ってからも底堅さを維持しています。足元の堅調さは、株価の最大の下押し圧力となっていた欧州の債務問題に対する包括策が合意に至り、市場にひとまず安心感が拡がったことや、2011年7-9月期の米GDP成長率が持ち直しをみせるなど、米国内景気に対する過度の不安がやや後退したことなどが背景にあるとみられます。2011年の株式市場と過去の経験則を比べると、下落が続いた年央を除き、年初からおおむね同様の値動きとなっています。こうしたことを踏まえると、今年の9月が相場の底となって、来春にむけて堅調な相場展開が続くことが期待されます。

NYダウ工業株30種平均の月別騰落率（※）

期間：1970年～2010年（左）および2011年1月～10月（右）



（※）月別パフォーマンスは、前月末終値から当該月末終値の騰落率の平均値

※信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成。
※グラフ・データは過去のものであり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。